

平成 26 年度第 1 回青森市健康福祉審議会障がい者福祉専門分科会 会議概要

- 開催日時** 平成 26 年 5 月 21 日（水）18：30～19：40
- 開催場所** 市役所第 1 庁舎 福利厚生室
- 出席委員** 船木昭夫会長職務代理者、鎌田慶弘委員、河合敏雄委員、高坂芳男委員、田中文明委員、成田祥耕委員 <<計 6 名>>
- 欠席委員** 前田保会長 <<計 1 名>>
- 事務局** 健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部理事 能代谷潤治、障がい者支援課長 百田満、同課副参事 長内哲史、浪岡事務所健康福祉課副参事 加福拓志、障がい者支援課主幹 田澤康治、同課主幹 白戸高史、同課主査 佐藤進一、同課主査 佐々木栄子、同課主査 唐川昌彦 <<計 10 名>>

- 会議次第**
- 1 開会
 - 2 健康福祉部長あいさつ
 - 3 審議案件
 - (1) 青森市障がい福祉計画第 4 期計画について
 - (2) アンケート調査について
 - 4 報告事項
 - 青森市障害福祉計画第 3 期計画の実績について
 - 5 その他
 - 6 閉会

議事要旨

審議案件（1）青森市障がい福祉計画第 4 期計画について

事務局から、資料 1、参考資料及び資料 2 のとおり、青森市障がい福祉計画第 4 期計画について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

参考資料の第 2「② 福祉施設から一般就労への移行」について、「一般就労への移行者数を平成 24 年度実績の 2 倍へ」などとあるが、どのようなことか。

○事務局

この成果目標は国の基本指針において示されている目標で、国が市町村に求めているものである。

○委員

参考資料の第 1「② グループホーム等の充実」とは具体的にどのようなことか。

○事務局

こちらは具体的な数値目標を掲げる項目ではなく、国において施設入所から地域生活への移行を推進していく中で、障害福祉サービスの提供体制の確保について、グループホーム等の充実や地域生活拠点の整備に力を入れていく旨の基本的な考え方を示したものである。

○委員

ぜひ、力を入れていただきたい。

議決

審議案件(1)「青森市障がい福祉計画第4期計画」について、全会一致で了承された。

審議案件(2) アンケート調査について

事務局から、資料3-①、資料3-②、資料4-①及び資料4-②のとおり、アンケート調査について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

資料3-②「アンケート調査へのご協力のお願い」1ページ目などで、「障害」の「害」の字がひらがなと漢字の両方使われている。

○事務局

市の考え方としては、法律用語は漢字で表記し、それ以外の人を表すときなどはひらがなにしている。このアンケートはあくまでも障がいのあるかたを対象としていることやひらがな表記の趣旨等を踏まえ、アンケートにおける「害」の字は、すべてひらがなで表記する。

○委員

資料3-②「アンケート調査へのご協力のお願い」2ページ目の問4の選択肢について、「1. 父母・祖父母・兄弟」とあるが、データとしては分けたほうが良いのでは。

○事務局

選択肢を分けることとする。

○委員

資料3-②「アンケート調査へのご協力のお願い」1ページ目の調査対象者の選定に関する説明について、対象者をどのようにして選んだのか、例えば台帳から無作為に選んだなど、選定方法をはっきりと明記する必要がある。

○事務局

選定方法を明記することとする。

議決

審議案件(2)「アンケート調査」について、全会一致で了承された。

報告事項 青森市障害福祉計画第3期計画の実績について

事務局から、資料5のとおり、青森市障害福祉計画第3期計画の実績について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

居宅介護の実績は見込量を上回っているが、平成26年度の実績が見込量を上回った場合、サービスを押しさえ込むことになるのか。

○事務局

見込量は第3期計画で見込んだものであり、既に実績が上回っているので、そのようなことにはならない。

○委員

就労継続支援A型の実績は伸びているので良いと思っている。第4期計画の成果目標は、国の基本指針で示したとおりとなるのか。

○事務局

それについては、これから皆さんと一緒に議論していきたい。

その他

なし